



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

群馬県 高崎市立箕郷中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上の調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：櫻井由香先生（バレーボール）【出場オリンピック／北京2008大会】

■期 日：2023年7月5日(水)

■クラス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・北京2008大会にバレーボール競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「敬意／尊重」と説明。オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活の中にもある。体を動かしながら、仲間の良いところを見つけてほしい。準備体操は、バレーボールを使ったストレッチを行った後、オーバースとアンダースの基本姿勢を説明し、班毎にエンジンパスを実施。

○主運動等



・主運動は「ボールつなぎリレー」を実施(全3回)。6班に分かれ、班毎にボールをオーバースとアンダースでつなぎ、折り返し地点を周って戻る。ボールは全員が必ず1回以上触り、ボールを落とした場合は落とした場所から再スタートし、ゴールしたタイムを競う。途中作戦タイムを設け、ボールを落とさない方法や早くつなぐ工夫を皆で考えてほしいと伝える。



・運動の時間を振り返り、班の仲間と意見を出し合い工夫したことで記録が良くなった。皆の行動はオリンピックバリューにつながる。結果が全てではなく、それまでに皆で考え、仲間を思いやる行動が大切だ。座学の時間は、運動の時間で感じたことや、仲間の良いところを思い出しながら、オリンピックバリューについて更に深く考えていきたい。自身の経験をオリンピックバリューに結び付けて話したいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**： 櫻井 由香 先生 (バレーボール) 【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**： 2023年7月5日(水)

■ **ク ラ ス**： 2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自己紹介の後、自身の試合映像を見ながら、リベロと言うレシーブ専門のポジションを務め、厳しく苦しい練習も乗り越えた。オリンピックバリューは、オリンピックだけのものではなく、皆の日常生活にも深く関わっていることを一緒に考える時間にした。小学校5年生からバレーボール競技を始め、オリンピック出場の夢を22年間掛けて叶えることができた。仲間がいたから諦めずに続けることができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じた、仲間の良いところを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：「取りやすいボールを投げしてくれる」「全力で取り組む」「リーダーシップをとってくれる」等
 フレンドシップ：「常に声を掛ける」「励まし合う」「皆がボールに触れるように気遣う」「苦手な友達を助ける」等
 リスペクト：「失敗しても責めない」「1人1人が発言する」「笑顔で楽しむ」等



・座学の時間を振り返り、夢や目標に向かう上で、上手く行かないときや壁にぶつかる時が必ずくる。自分自身が前向きな言葉を発することで周りの人も前向きな気持ちになる。そしていつでも自分自身を好きでいてほしい。周りの人を思いやる気持ちを忘れずに、まずは自分を好きになり、自分を応援することで仲間を大切にできるようになる。これからも充実した学校生活を送ってほしいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：須佐 勝明 先生 (ボクシング) 【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2023年7月4日(火)

■ **ク ラ ス**：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ロンドン2012大会にボクシング競技で出場したと自己紹介。皆にボクシングを体験してほしいと話し、2名の生徒が実際にグローブをはめてパンチを体験する。オリンピックの2つの目的について、1つは世界中のトップ選手が集まり競いあう、もう1つはオリンピックバリューの意義を理解することだと説明。準備体操は、体育館を歩行、走行を繰り返しながらボクシングに必要なひねる動作やステップ等、先生の動きを真似しながら実施。

○主運動等



・準備運動は「新聞じゃんけんバランス」を実施。じゃんけんに負けたら新聞紙を折り、バランスよく新聞紙の上に立つ。
 ・主運動は「パスリレー」を実施(全3回)。6班に分かれ、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、卓球のすべてのボール(順不同)を1個ずつ回し順位を競う。ボールを落とした場合は、その場所でバービージャンプを班全員で1回行う。途中作戦タイムを設け、回すボールの順番や、並び順を話し合う。



・運動の時間を振り返り、皆が全力で頑張ったことはエクセレンス、班の中で協調性を意識しチームワークが図れていたことはフレンドシップ、皆で声を掛け合っていたことはリスペクトだ。オリンピックバリューを意識して取り組んでいたことは素晴らしい。座学の時間は、日常生活の中でオリンピックバリューをもっと意識するためにはどんなことが必要か等、皆で考える時間にしたと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：須佐 勝明 先生 (ボクシング) 【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2023年7月4日(火)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自身の試合映像とスライドを見ながら自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「敬意／尊重」と説明。オリンピックシンボルについて5つの輪は5大陸を表わし、背景の白色を含む6色で世界中の国旗が描ける。近代オリンピックの創始者、ピエール・ド・クーベルタンについて紹介し、オリンピックは勝つためだけにあるのではなく、人を気遣い、感謝を忘れずにいることもとても大切で、そのことが平和にもつながる。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じた良かった点は、どのオリンピックバリューに当てはまるか考えよう。

発表：エクセレンス：「あきらめなかった」「ベストを尽くした」「一生懸命取り組んだから楽しめた」等

フレンドシップ：「相手のことを考えて投げた」「チームワークを意識したことで絆が深まった」「協力できた」等

リスペクト：「声を掛け合ったことで気持ちよく取り組めた」「ルールを守った」「相手の気持ちを理解した」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューは、オリンピックだけが感じる特別なものではなく、皆の日常生活の中にも深く関わっていることを理解できたと思う。学校生活や人生の様々な経験の中で、辛いことや苦しいこともあると思うが、その時にオリンピックバリューを思い出して乗り越えてほしい。最後まで諦めずに努力を続けることで見つかることが必ずあるのでこれからも頑張ってもらいたいと伝え、授業終了。

■オリンピック：櫻井由香先生（バレーボール）【出場オリンピック／北京2008大会】

■期 日：2023年7月5日(水)

■クラス：2年3組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・北京2008大会にバレーボール競技で出場したと自己紹介。現役時代にコート内でチームメイトが呼び合うコートネームが自身は「えび」だったと話し、胸に名前シールを貼る。オリンピックバリューについて説明し、クラスの仲間の良いところを探しながら取り組んでほしい。準備体操はバレーボールを使ったストレッチを行った後、オーバーパスとアンダーパスの基本姿勢を説明。その後班で円をつくりエンジンパスを実施。

○主運動等



・主運動は「ボールつなぎリレー」を実施(全3回)。6班に分かれ、班毎にボールをオーバーパスとアンダーパスでつなぎ、折り返し地点を周って戻る。ボールは全員が必ず1回以上触り、ボールを落とした場合は落とした場所から再スタートし、ゴールしたタイムを競う。途中作戦タイムを設け、ボールを落とさない方法や早くつなぐ工夫を皆で考えてほしいと伝える。



・運動の時間を振り返り、主運動で順位の結果は出るが結果が全てではなく、大切なのは皆で考えた作戦が上手くいくためにはどうすれば良いかを考え、同じ目標を持ち協力しながら取り組むことだ。学校生活の行事等に参加する際も、目標に向かう過程で誰1人欠けることなく、皆1人1人それぞれの役割が必要であり大切であることを意識しながら、仲間を大切にしてほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**： 櫻井 由香 先生 (バレーボール) 【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**： 2023年7月5日(水)

■ **ク ラ ス**： 2年3組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自身の試合映像を見ながら自己紹介。運動の時間に仲間の良い所に気付いたと思うが、そのことがオリンピックバリューにどのようにつながっているかを考えてほしい。小学校5年生でバレーボール競技をはじめ、22年間の競技人生を続ける中で、苦しいことや辛いこともたくさんあった。オリンピックに出場する夢を持ち続け、決して諦めなかったから22年の歳月をかけて夢を叶えることができた。支えてくれた仲間感謝している。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じた、仲間の良いところを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：「目標を持って取り組めた」「積極的に意見を出した」「あきらめずに次に挑戦した」「笑顔でいた」等
 フレンドシップ：「失敗を責めなかった」「ミスにしても励ましの声を掛けてくれた」「応援をしてくれた」等
 リスペクト：「遠い所にボールが行っても一生懸命に拾いに行ってくれた」「必死にカバーしてくれた」等



・座学の時間を振り返り、皆の発表は仲間をよく見て理解しようとする気持ちがあるから仲間の良いところに気付く。前向きな言葉を口に出すことで、上手いできないことや壁にぶつかったときに、その前向きな言葉が自分に返ってくる。また、自分のことを好きになってほしい。自分を好きにならないと周りの人に対しても、思いやりの気持ちを持つことができない。周りの人を大切にこれからの人生を過ごしてほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：須佐 勝明 先生（ボクシング）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2023年7月4日(火)

■ク ラ ス：2年4組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ロンドン2012大会にボクシング競技で出場したと自己紹介。オリンピックの2つの目的とは、世界中の選手が集まり競い合うこと、そしてオリンピックバリューを世界中の全ての人々が意識する狙いがある。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「全力で取り組む」、フレンドシップ：「チームワーク」、リスペクト：「感謝」「尊敬」と説明。皆にボクシング競技を体験してほしいと、生徒2名が実際にグローブを付け先生を相手にパンチを打つ。

○主運動等



・準備運動は上半身の回転運動やステップ等の動きを入れて体育館を走った後、「新聞じゃんけんバランス」を実施。
 ・主運動は「パスリレー」を実施(全3回)。6班に分かれ、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、卓球のすべてのボール(順不同)を1個ずつ回し順位を競う。ボールを落とした場合は、その場でバーピージャンプを班全員で1回行う。途中作戦タイムを設け、回すボールの順番や、並び順を話し合う。



・運動の時間を振り返り、オリンピックバリューについて、しっかり理解しながら取り組んでいて素晴らしい。オリンピックバリューは皆の身近にある。座学の時間は、自身のオリンピックに出場するまでの経験を話し、そのことがオリンピックバリューにどのように結びついているかを伝えたい。また、皆自身が日常生活の中でオリンピックバリューをもっと意識できるように一緒に考えていきたいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：須佐 勝明 先生 (ボクシング) 【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2023年7月4日(火)

■ **ク ラ ス**：2年4組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自身の試合映像とスライドを見ながら自己紹介。近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンについて、オリンピックは競技の競争だけではなく、オリンピックバリューを提唱することにより世界平和を願ったと説明。オリンピックシンボルは5つの輪が5大陸を表し、背景の白を含めた6色で世界中の国旗を描くことができる。ロンドン2012大会の4年前の北京2008大会に出場することができず引退を考えたが、周りの人の支えがあり諦めなかったことで4年後に出場を果たせた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じた良かった点は、どのオリンピックバリューに当てはまるか考えよう。
 発表：エクセレンス：「全力で最後までボールをつなぐことができた」「一人一人意見を言えた」「諦めなかった」等
 フレンドシップ：「丁寧にボールを渡した」「チームワークが良く楽しめた」「仲間と理解し合えた」等
 リスペクト：「友達のことを応援できた」「ルールを守った」「仲間と感謝し合えた」「片付けを気持ちよくできた」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューはオリンピックだけの特別なものではなく、皆の日常生活の中にもある。皆のこれからの人生の様々な場面で、オリンピックバリューを1つでも意識できると、自分がやりたいことを見つけられると思う。楽しいことばかりではなく、挫折したり壁にぶつかったりする場面もあると思うが、オリンピックバリューを思い出して乗り越えてほしいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：大川 真澄 先生 (体操／体操競技) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日**：2023年7月5日(水)

■ **ク ラ ス**：2年5組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・アトランタ1996大会に体操／体操競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「諦めないで頑張る心」、フレンドシップ：「協力」「チームワーク」、リスペクト：「感謝」「ルールを守る」「フェアプレー」と説明。運動の時間はオリンピックバリューを意識しながら、仲間と協力し楽しんでほしいと授業の目的を伝える。その後、皆の前でマット運動(側転、倒立前転、開脚前転)の見本を披露。

○主運動等



・準備運動は「じゃんけん勝ち抜け」を実施(全3回)。4箇所にポイントを設け、じゃんけんに勝ったら次のポイントに進む。
 ・主運動は「風船パス回し」を実施(全3回)。各自持ったハチマキを隣の人とつなぎ班で1つの円を作る。風船を足と頭を使って床に落とさないようにパスを回し回数を競う。同じ人が2回連続して風船を触ってはいけない。3回目はひと班毎に皆の前で実施。3回目の実施の意図は、体操競技が審判や観客の前で1人で演技をする際の緊張感を皆にも体験してほしいからだ話す。



・運動の時間を振り返り、オリンピックバリューを意識しながら楽しんで取り組んでいたことはとても素晴らしい。主運動の3回目の風船パス回しで、緊張感とプレッシャーを感じながら、真剣に取り組んでいた様子は、エクセレンスであり、フレンドシップでもある。座学の時間は、自身のオリンピックに出場するまでの経験を話し、オリンピックバリューとどう結びつかを皆と一緒に考える時間にしたいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：大川 真澄 先生 (体操/体操競技) 【出場オリンピック/アトランタ1996大会】

■ **期 日**：2023年7月5日(水)

■ **ク ラ ス**：2年5組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自己紹介の後、近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンについて、世界の平和を願いオリンピックを開催したと説明。オリンピックシンボルについて、背景の白を含めた6色で世界中の国旗を描くことができる。高校2年生の時にオリンピックに出場したが、大会の1年半前に骨折をしてしまい夢を諦めかけたが、家族や友人に励まされ、諦めずにリハビリを続け夢を叶えることができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を踏まえ、自分の夢や目標を達成するためには、オリンピックバリューの何が必要か考えよう。
 発表：エクセレンス：「何事にも全力で取り組む」「あきらめないで努力する」「小さいことからコツコツと頑張る」等
 フレンドシップ：「仲間と協力する」「相手を思いやる」「お互いを理解する」「助け合う気持ちを持つ」等
 リスペクト：「決められたルールを守る」「常に感謝の気持ちを持つ」「気持ちを切り替えることができる」等



・運動と座学の時間を振り返り、何事も結果が全てではなく、それまでに自分自身が一生懸命に取り組んだことや、上手く行かないときや壁にぶつかったときに、どうすれば乗り越えられるかを考える過程そのものが大切である。これから高校受験や将来に向けての勉強や部活動等、夢や目標に向かって大変な時期に入ると思うが、何事も諦めずに一生懸命に努力し続けてほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：長岡千里先生（ボブスレー）【出場オリンピック／トリノ2006冬季大会】

■期 日：2023年7月4日(火)

■クラス：2年6組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・トリノ2006冬季大会にボブスレー競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明し、運動の時間は体を動かしながらオリンピックバリューを感じ、考えてほしい。ストレッチの後、ボブスレー、スケルトン、リュージュの3つのそり競技の滑走姿勢を説明。その場で皆で実践してみる。準備運動は「じゃんけん勝ち抜け」を実施。4箇所にポイントを設け、じゃんけんに勝った人は次のポイントに進む。

○主運動等



・主運動は「新聞紙でボール運びリレー」を実施(全3回)。2つの班を1チームとし、3チームの対抗戦とする。2人組を作り、新聞紙の端を持ちその上にバレーボールを載せて折り返し地点のコーンを回って戻る。1位は10ポイント、2位は8ポイント、3位は5ポイントと、着順にポイント点を付け、合計点を競う。ボールを落とした場合は、落とした地点から再スタートとする。



・運動の時間を振り返り、主運動は決められたルールを守りながら一生懸命、最後まで諦めずに取り組んでいたことは素晴らしい。結果が全てではなく、皆が記録を伸ばすために仲間と協力しながら意見を出し、工夫しながら実践したことが大切だ。座学の時間は、運動の時間で感じたこと、作戦タイムで考えたこと等、オリンピックバリューとどのように関わっているのか皆と一緒に考えていきたいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：長岡 千里 先生 (ボブスレー) 【出場オリンピック／トリノ2006冬季大会】

■ **期 日**：2023年7月4日(火)

■ **ク ラ ス**：2年6組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自身が出場した試合映像を見ながら、自己紹介と競技説明。ボブスレー競技はスイス発祥のスポーツであり世界的にはまだまだマイナー競技だ。自身はブレーカーと言って、そのの後に乗り体を沈め下を向いた状態で滑走する。コースが見えないのでカーブの数を数えながら最後にブレーキをかける役目を担う。オリンピック最終選考会の前に、指に大怪我を負い、一度はオリンピック出場を諦めかけたが、友人の励ましのおかげで出場することができ感謝している。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に自分が意識したことをオリンピックバリューに結び付けて考えよう。

発表：エクセレンス：「勝つためにどうするかを考えた」「勝負に全力で取り組む」「効率よく動く方法を考えた」等

フレンドシップ：「チームで協力すること」「声を掛け合う」「相手と息を合わせる」等

リスペクト：「ミスを責めない」「ペアはお互いを信頼する」「負けても楽しもう」「誰でも応援する」等



・座学の時間を振り返り、何事にも興味を持ち挑戦してほしい。自身はそれを「興味の柱」と呼んでいる。心の中に興味の柱をたくさん立て、いつか本当にやりたいことを見つけてほしい。様々なことに挑戦する中で、途中で飽きてしまったり、違うと思ったら方向転換し次に挑戦することでその経験が次に役立つ。目標に向かって進む過程が1番大切なので、結果が全てではなく負けたり失敗することで次の成功へつながることを忘れないでほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■集合写真

・2年3組



・2年4組



■集合写真

・2年5組



・2年6組



■ 記念品贈呈

・ 2年1組



・ 2年2組



・ 2年3組



・ 2年4組



・ 2年5組



・ 2年6組



■ 修了証贈呈

